

日本看護歴史学会 会報

日本看護
歴史学会
第67号
2017年1月15日

年頭所感 ～事実の記載と背景を掬いとる感性を～

日本看護歴史学会理事長 川嶋みどり



川嶋みどり理事長

新年の初頭に当たり、みなさまのご健勝と看護歴史研究の更なる一步を心から祈念いたします。

さて、昨年も熊本大震災をはじめさまざまなきごとがありました。十二月の朝刊の見だけでも、矢継ぎ早に国会を通過した「TPP関連法」「年金改革法」「カジノを含むIR法」や、「墜落事故直後のオスプレイの飛行再開」など、この国の現在の立ち位置や将来を左右するようなきごとが目につきます。その何れも、人々のいのち・健康・暮らしに影響する重大なものでありますから、看護師としても深い関心を持たざるを得ません。それらの事実を記憶に留めるだけではなく、その時々居合わせた人たちがどのようにこれを受け止め考え行動したかを、正しく記載しておくことは、歴史研究の視点からも大切でありましょう。その際、ただ、目に映る事象だけが真実でないことは、『星の王子さま』（サン・テグジュペリ）の一節「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」との王子の言葉を思います。

それにつけても、福島第一原発事故後、県外に自主避難して長期にわたっていじめを受けた少年の内面の苦渋を見過ごすわけには参りません。「いままで何回も死のうと思った」としな

がら、「震災でいっぱい死んだからつらいけどぼくは生きるときめた」と書いたメモが紹介されました。被災後六年近くも怯え苦しみ続けたことをようやく口に出し、生きることを選んだ少年。これは、少年1人のものではありません。後を絶たない各種ハラスメントが高じて、障害者殺人事件にまで及ぶ現代社会の中の根深い差別や疎外意識は、やがて、誰もが守り守らなければならない人間として生きる権利を脅かすことにも直結すると思います。

こうした一連の国内のできごとをふり振り返りながら、長く続く中東の内戦についても歴史的な関心に向ける必要があります。民族や宗教そして土地問題などを背景にした抗争が、何故こんなに長く続くのか。そこには当事者間の紛争を利用する大国の思惑がからんでいることも明らかかなようです。世界遺産でもあった美しいシリアの街が、容赦ない空爆で崩壊し、行き場を失った人々の逃げ惑う姿が、日常の私たちのリビングの画面にしばしば映し出されます。アレッポの少女バナちゃん（7歳）は「私たちは今家を失いました。軽いけがをしました。昨日から寝ていません。お腹がすきました。生きたい、死にたくないーバナ」と、ツイートしました。母親のファティマさんは「攻撃が続いています。どこにも行く場所がありません、常に死を感じています。私たちのために祈っててください。さようならーファティマ」と続け、世界の多くの人々の胸を打ちました。自由とか平等という言葉の持つ重みを改めて噛みしめながら、迎えるこの年の真の平和を願わずにはられません。

そうした中、看護未来塾の誕生は、暗闇の中のひとすじの光を思わせるできごとでありました。どうぞその趣旨を以下よりご覧ください。

<http://www.kangomirai.com/about-uc>

日本看護歴史学会第30回学術集会を終えて

大会長 日下 修一

平成28年8月20日(土)21日(日)の2日間、聖徳大学で第30回学術集会を開催させていただきました。ありがとうございます。天候はやや不順でしたが、他の学会と日程的に重複する中ではございましたが、参加者163名で、実行委員、学生ボランティアなどを含めると、220名を超える多くの皆様にご参加いただきました。

1日目の大会長講演は「精神看護での看護歴史教育の必要性ー精神医療史に見る差別意識の形成過程ー」というテーマで、看護教育、精神看護教育における歴史教育の必要性を述べました。「精神障害者に差別意識を持つな」という教育は無意味だということ、差別意識を持っていてもおかしくない状況を説明し、差別意識の原因には社会や周囲、家族の偏見等があることを説明した上で、差別意識を持つことは問題がなく、差別意識の対処方法を学生に明確に示す必要があることを述べました。教育講演1「第1次史料からの解釈の創造性」では、聖徳大学副学長増井三夫先生にご講演いただき、未刊行史料探索や資料解釈に関する話題を提供していただきました。特別講演1「人に寄り添う看護ーハンセン病患者の看護経験よりー」では、国立療養所多磨全生園看護師長・医療安全担当管理者の森田宏子さんに具体的なハンセン病患者の「生きる力」、「end of life care」、看護職の受け止め方などハンセン病看護について貴重な体験をお話していただきました。教育講演2「1867年パリ万国博覧会が残したものープリンス・トクガワと高松凌雲ー」では、戸定歴史館館長斉藤洋一先生に、敗者となった徳川昭武は明治以後、松戸に住み、高松凌雲の活動やパリ万博について、戸定邸など残した文化財の意味についてご講演いただきました。

シンポジウムは「看護歴史教育の必要性」というテーマで、川嶋みどり(日本赤十字看護大学)、丸山マサ美(九州大学)、吉澤千登勢(山梨県立大学)、船山健二(新潟刑務所)の4名の多方面のシンポジストから、倫理的側面も含めた、看護歴史教育の必要性についてディスカッションしていただきました。特に、船山氏は司法看護、矯正看護という差別や偏見の存在する看護の現場からの報告を行っていただきました。

理事会セッションI「歴史の中の従軍慰安

婦の真実ー史実から学ぶ平和の尊さと女性の人権ー」では千葉県館山市かいた婦人の村名誉村長の天羽道子氏から、「慰安婦」問題について、具体的なお話を頂き、考えさせられました。理事会セッションII「看護における歴史研究 個人史へのアプローチ」では、岡山寧子氏により、①個人史研究の進め方、②史料収集法、③研究テーマの設定、④論文作成等について講演していただきました。一般演題発表として、1日目には口演2題、示説23題の発表が行われ、活発な議論がなされました。特に今年は示説希望が多かったのが特徴的でした。

懇親会では聖徳大学学生による演奏などと共に、参加者間の交流が深められました。

2日目は特別講演2「看護師特定行為研修の現状ー指定研修機関の取り組みー」のテーマで自治医科大学看護師特定行為研修センターの村上礼子先生より、ご講演いただきました。自治医科大学では、2015年8月に自治医科大学看護師特定行為研修センターを設立し、指定研修機関の第1号として厚生労働省の指定を受け、2015年10月に第一期研修生の研修が開始されたこと。指定研修機関としての自治医科大学看護師特定行為研修センターのこれまでの取り組みを具体的にご紹介、解説していただきました。受講生の実際の様子も紹介され、熱のこもったお話が伺え、講演時間は20分ほど超過しましたが、会場の参加者としては満足いく内容であったと思います。理事会セッションIIIでは「看護師の特定行為に関する研修制度と歴史的意味」というテーマで、特別講演を受ける形でディスカッションがなされ、特定行為研修についての様々な問題点が参加者から指摘され、看護とは何かを考えさせられるセッションでした。一般演題発表では2日目の口演では6題の発表があり、活発な議論がなされました。

全体を通じて、「看護基礎教育での看護歴史教育の必要性ー看護医療の差別の歴史をどう教えるかー」という大会テーマに沿った様々なディスカッションがなされ、会員間の交流が深まった大会だったと思います。参加者の皆様からは本学学生にお褒めの言葉を頂き、学生も看護の歴史に対する認識を改めることができました。ありがとうございました。

日本看護歴史学会—第30回学術集会に参加して—

日本福祉大学看護学部 松田 武美

第30回学術集会のテーマである「看護基礎教育での看護歴史教育の必要性—看護医療の差別の歴史をどう教えるか—」に魅かれて、聖徳大学で行われた学術集会に参加しました。

理事会セッションでの長期婦人保護施設「かにた婦人の村」の名誉村長天羽道子さんからの「従軍慰安婦」を経験したSさんのお話が印象的でした。Sさんは、慰安所における真実を日本でただ一人自分の体験の話をした人です。天羽道子さんからの慰安婦のお話は、女性にとって胸が痛くなる思いで聞かせてもらいました。その中で天羽道子さんは長年Sさんを支え、身体と心の傷に寄り添う看護をしてきたのだと感じました。

その他、ハンセン病患者の看護経験などの講演を聞き、先人の献身的な働きから看護の専門性や果たすべき役割を考えることができ、

今まで知らなかった史実を知り倫理的なことも含めて本当の意味での看護とは何かを考えることの必要性を学びました。

過去をしっかりと振り返り、未来に向かってより良い看護を行うためにこれからも患者に寄り添いながら歩んできた看護師のことを看護教育の中で伝え続けていきたいと思いました。



六史学会報告

日本看護歴史学会理事 高橋 みや子

六史学会は古い順に日本医師史学会、薬学史学会、日本獣医史学会、日本歯科医史学会、日本看護史学会、洋学史学会からなる。本学会は会員数において3番目である。

平成28年12月17日、順天堂大学において例会発表と懇親会があった。研究発表は7題で、相川忠臣氏「新たに発見された養成所遺構の保存をについて」の緊急提言に続き、青木歳幸氏「牛痘伝播についての小孝」、坂井建雄氏「江戸時代までに渡来したヨーロッパ医学の実像」、森本和滋氏「石館守三博士の生涯から教

えられるもの：3つのお仕事に焦点を絞って」、佐藤国雄氏他1名「日本の鶏病の歴史—鶏のサルモネラ症の防疫史を主題として」、金子譲氏他5名「なぜ歯科医学は大学学部から除外されたか—戦前の高等教育史—」、滝内隆子氏「学校看護婦の再教育—全国学校看護婦講習会に焦点をあてて—」であった。

会場は満席で気合いと熱気にあふれた。特に最後の演者滝内氏の発表は、高質で密度が高くかつ気迫に満ちたもので会場を魅了した。その上、例会を定刻に終了させて参加者感嘆させ、さすが日本看護歴史学会の方の発表ですねと口々に褒められました。

日本看護歴史学会第31回学術集会のご案内

看護の政策過程の検証

—歴史から看護のエビデンスを探る—

日 時：2017年（平成29年）8月18日（金）・19日（土）

会 場：東京慈恵会医科大学医学部看護学科（東京都調布市）

大会長：田中幸子（東京慈恵会医科大学医学部看護学科）

日本看護歴史学会は平成29年で、30周年を迎えます。この記念すべき年に、東京慈恵会医科大学において学術集会を開催することとなりました。

看護の史実を紐解いて、その時何があったのか、誰が何をしたのか、ということは看護の政策過程において方向性を決定づけた重要な真実（エビデンス）になると考えました。つまり、史実を紐解き、人々の目に留まるように可視化することが政策過程の分析には必要であり、歴史研究はそれに相応しい研究手法といえます。

今回は、看護の政策過程を振り返るために、准看護婦（師）制度をテーマにシンポジウムを開催します。また、歴史を記憶として人々の中に留める方法として、最先端

のデジタルアーカイブスの手法に関する特別講演、さらに最も重要でありながら、看護歴史の研究手法としてはあまり用いられてこなかったオーラルヒストリーの研究手法の教育講演、ならびに慈恵の初期の看護教育に関する教育講演を予定しています。そして30周年を記念して、学会発起人がどのような思いでこの学会を立ち上げられたのか、先人の看護歴史にかける思いを理事会セッションとして開催し、看護歴史を探求する意義を参加者の皆様と共有してまいります。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日本看護歴史学会第31回学術集会長

田中 幸子

内容（予定）

- 会 長 講 演：「看護の政策過程 — 占領期の看護改革を振り返って—」
- 特 別 講 演：「データを紡いで社会につなぐ、記憶を伝えるデジタルアーカイブス」
渡邊 英徳（首都大学東京システムデザイン学部 准教授）
- シンポジウム：「准看護婦（師）制度の政策過程を考える」
「准看護婦問題調査検討会を振り返って」
似田貝香門（東京大学 名誉教授）
「保助看法制定以降の准看護師制度の検討」
野村 陽子（岩手医科大学 教授）
「准看護婦（師）制度問題を考える」
林 千冬（神戸市看護大学 教授）
- 指定討論者：中島 幸恵（全国准看護師看護研究会 会長）
- 教育講演Ⅰ：「オーラルヒストリー・メソッドが拓く歴史研究の可能性」
梅崎 修（法政大学キャリアデザイン学部 教授）
- 教育講演Ⅱ：「メアリー・E・リードと慈恵の初期看護教育」
芳賀佐和子（東京慈恵会医科大学 客員教授）

プログラム（予定）

平成29年8月18日（金）

	ホワイエ	大講堂	臨床講堂	講義室1・ラウンジ	講義室2	講義室3
	受付	メイン会場	演題会場	休憩場所	演題会場	演題会場
9:40~	受付	オリエンテーション 開会の辞				
10:00~10:40		会長講演 I		パネル展示		
		休憩				
10:50~11:40		特別講演				
11:40~12:30			総会	昼食用会場		
		休憩				
12:40~14:40		シンポジウム				
		休憩				
14:50~15:40		教育講演 I	演題発表		交流セッション	演題発表
		休憩				
15:50~16:50		理事会セッション (30周年記念セッション)	演題発表		理事会セッション	演題発表
		休憩				
17:10~18:40	ベラ（学生食堂懇親会）					

平成29年8月19日（土）

	ホワイエ	大講堂	臨床講堂	講義室1	講義室2	講義室3
9:00~	受付					
9:30~10:30		教育講演 II	演題発表	パネル展示		演題発表
10:30~10:40		休憩				
10:40~12:00		理事会セッション	演題発表			演題発表

事前申込について

- 事前申込期間：平成29年6月末日まで。それ以降は当日受付となります。

参加費	会員	非会員	学生※
事前申込	7,000円	8,000円	500円
当日受付	8,000円	9,000円	500円

懇親会参加費：4,000円（当日申込も可能）／8月18日（金）のお弁当注文：1,000円（事前申込のみ）
 ※学生（大学院生は除く）は当日学生証をご提示の上、受付にてお申込みと参加費のお支払いをお願い致します。

- 事前申込方法：郵便振替

8月18日にお弁当を希望される場合は、お弁当代も合わせた金額を振り込んで下さい。

郵便振替口座：00180-1-730821

口座名義：日本看護歴史学会第31回学術集会

問い合わせ先 東京慈恵会医科大学医学部看護学科

住所：〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1

メールアドレス：kangorekishi31@jikei.ac.jp

第11期理事・監事選挙の公告

2016年8月20日の総会で、第11期理事・監事の改選が確認されました。これにより「日本看護歴史学会理事および監事選挙規則」に基づき、本会報の発行日をもって理事・監事選挙公示日といたします。

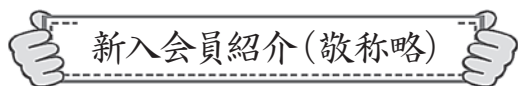
投票期間は、発行日より2017年2月28日（当日消印有効）までとなります。投票用紙は別途郵送のものを使用し、理事（10名）・監事（2名）に相応しいと思う会員に印をつけ、投票所宛の封筒を使用し、無記名で郵送して下さるようお願いいたします。

選挙管理委員氏名

総会場で選出された選挙管理委員は次の通りです。

大川美千代氏 小野 桂氏 刀根 洋子氏（五十音順）

なお、規則により、選挙権は会費を（今回は2016年度）期日までに完全に納入した人、被選挙権は、入会3年を経過し、会費を完全に納入した人に与えられます。



*（ ）内は会員番号 平成28年6月～平成28年12月入会

岡本 留美 (16026)	坂本 陽子 (16027)
加藤 栄子 (16028)	野口 理恵 (16029)
金井 一薫 (16030)	



■事務局から

平成28年度会員動向（平成28年12月末現在）

1. 会員数	336名
2. 入会者数	5名
3. 退会者数	3名

会費納入のお願い

昨年度の会則の変更により、会費滞納による会員資格喪失の期間が3年間から2年間となりました。年会費をまだ納入されていない会員の方は同封しております払込取扱票にて納入をお願いいたします。その際、住所・氏名・会員番号のご記入をお願いします。

所属・住所変更や退会の場合

ホームページの事務局の「変更・退会届」からダウンロードしていただき、事務局宛にご提出ください。

学会誌投稿論文の送り先

投稿論文の送り先は事務局ではなく、編集委員会となっておりますので、お間違えのないようお願いいたします。送り先は、以下の通りです。

〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1
東京慈恵会医科大学医学部看護学科
日本看護歴史学会編集委員会
田中 幸子 宛

編集後記

平成28年は、オリンピックと英国のEU脱退や米国の大統領選挙結果など、先行きの明暗を感じさせる年でした。政治経済が低迷している今こそ、歴史に学び、人々の健康生活を守って行かなければと思います。 (み)

日本看護歴史学会会報 第67号

企画・編集 三上 れつ（中部大学）
川原由佳里（日本赤十字看護大学）

発行責任者 鷹野 朋美（事務局会報担当）

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒150-0012
東京都渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学 鷹野 朋美
TEL 03-3409-0190
FAX 03-3409-0589（代表）
e-mail rekishi@redcross.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>